

開成町立開成南小学校 学校だより



みなみの風

【発行日】

令和7年6月13日

【発行者】学校長

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成
学校生活における合言葉 「生き生きわくわく」と「3つの『あ』」

早いもので、約1か月後には夏休みという時期になりました。1年生にとっては小学生になって初めての、6年生にとっては小学校生活最後の夏休みになります。まだ早いようですが、少しずつ計画しておくともよいかもしれません。

この時期になりますと、熱中症のことが話題になります。本校においても様々な対策を行っていますが、自然相手なので、コントロールできることには限りがあります。子どもたちも、自身の体調の異変を実感することは難しいかもしれませんが、おかしいと思ったときには、行動にうつすようご家庭においてもご指導ください。

「雨のちくもり、ときどき晴れ」の林間学校 行事をとおしてたくましくなる5年生！【6月3～4日】

「日頃の行いが悪いわけではないのに…」と6月3日の朝に、思わずぼやいてしまいました。林間学校1日目は、一定量の雨で、その日は終日芳しくない天気予報でした。しかし、そこはとてもポジティブな5年生なので、出発式はとても明るく元気な顔が並びました。さすがは5年生です。

カレーづくりも協力して行い、林間学校ならではのおいしさ(察してください)があったようです。これもよい思い出となったことでしょう。林間学校は、遠足・集団宿泊的行事といって、泊を伴うことで得られる学びがあるので実施しています。一回り人間的に大きくなった5年生を、学校通信で紹介できる日が近いことでしょう。

行事の運営としては、火傷を防ぐことやヤマビルの対応など、課題として残るところがありました。この事実を確実に受け止め、次年度につなげていきます。



また一つ絆が深まる



真剣な顔が並びます



たった一言が… ～今のうちに身に付けたいこと～

「たった一言が人の心を傷つける。たった一言が人の心を温める」という言葉があります。使う場面や使い方の配慮が十分でないことで、たった一言が相手の心を大きく傷つけ、発する言葉に配慮することで、相手の心を温める効果があることを意味しています。この言葉の中にある「一言」を「行為や行動」に置きかえてみると「ほんの小さな行為が人の心を傷つけ、小さな行為が人の心を温めることもある」となります。学校生活や SNS 上を含む社会生活でますます求められていることではないでしょうか。

もちろん、実際の暴力がよくないのは当然ですが、時に言葉で言われる方が傷つくこともあります。相手を傷つけるような言葉は、友達や家族をだけでなく、誰に対しても使うことは望ましくありません。

言葉は人間にとって一番便利で身近な道具です。優しい言葉で誰かを励ますこともできます。しかし、鋭いナイフのような言葉は、人の心を切りきざみ、残酷なほど、他人の心を傷つけることもあります。

ラインやツイッターなどのネット上においても、現実の世界と同じです。自ら発する言葉には責任をもてるような人になってほしいと強く願います。

ここに来て、本校では丁寧な言葉(敬語等)を使う子が増えてきているなと感じます。これもご家庭での日常の中で、身に付けてきたことだと思います。言葉を大切にすることを、これからも育てていきたいです。

「教科書展示会」が開催されています

教科書展示会は、昭和23年の検定教科書制度の実施に伴い、教科書の適正な採択に役立たせるため、また、教育関係者の教科書研究の便宜と教科書見本の効率的運用を図るため「教科書の発行に関する臨時措置法」により設けられた制度です。

神奈川県教育委員会では、次により教科書を展示し、一般に公開していますので、ご興味がある方は、ぜひご覧いただければ幸いです。

*期間及び時間

令和7年6月6日(金)～令和7年6月25日(水)

午前9時～午後5時 <土・日曜日を除く>

*展示会場

足柄上合同庁舎 5階東側大会議室 B

小田原合同庁舎 2階2FG会議室

及び3階教科書センター(高等学校用)

*展示物

小学校用教科書 中学校用教科書 ほか



子どもの頃に夢中になったことって？ ～4年生にインタビューされて、自身を振り返る～

4年生の国語の授業の一環で、先生にインタビューしようという学びがあり、個別に10名ぐらいからインタビューを受けました。内容は共通していて「子どもの頃に夢中になったこと」というものでした。最近、自分が小学生だったころのことを思い出す機会がほぼなかったため、私にとっても有意義な時間でした。

今の子どもたちが夢中になっていることは、習い事や携帯型ゲーム等なのかもしれませんが、多岐にわたる趣味を答えるかもしれません。私が小学校高学年の頃は、いわゆるテレビゲームが出始めた時で、ほぼ所持している子はおらず、平日の多くの時間を自宅からほど近い広場で野球三昧でした。また、4年生から少年サッカーのチームに所属し、土日はその練習に明け暮れていました。つまり、外で過ごすことがほとんどでした。よって、私が夢中になっていたことは「遊びとスポーツ」といえます(他の娯楽は今と比べるとほぼ皆無です)。

世の中が大きく変わり、集団より個が尊重されがちですが、やはりみんなで協力して何かを行うということは今でも大切だと思います。インタビューを受けたほかの先生方は、何と答えたのか…興味津々です。

子育てアラカルト⑪ ～きょうだい～

私の家族には、今年 29 歳になる長男と 27 歳になる次男がいます。すでに二人とも社会人(長男は今年結婚しました)となり、長男は横浜市で、次男は大分県で暮らしています。私の影響もあり、小さいころから高校生までサッカーをとおして多くの学びをし、いろいろな仲間にも恵まれました。その他の面でも、様々な人的・物的環境に恵まれ、本当に感謝しかありません。

さてこの二人、必ずしも仲は悪いとは思いませんが、次男は中学生のころから言葉の端々に兄をライバル視していることが伺えました。親としては、比較しているつもりはなかったのですが、親も含め、まわりから言われた何気ない一言から、比べられていることを察し「負けたくない、比べられたくない」となってしまったのかも…。2歳差で、同じ幼・小・中学校に通えば、先生たちからは「〇〇の弟だね」と言われ、きょうだいであるというだけである程度の枠にはめられてしまい、それに対する抵抗が少なからずあったと、次男は漏らしたことがありました。その当時、たとえきょうだいであっても、異なる人格であることを再確認したことを思い出します。

ちなみに、私は一人っ子なのですが、大学生の時に「一人っ子は…」と一般論として教授から何らかの苦言を伝えられたことを覚えています。きょうだいがいないことで、家庭において社会性を身に付ける機会が少ないという内容だったような覚えがあります。きょうだいの有無は、自分でコントロールできないことなのですが…。